

2022年3月期 決算説明会

2022年 5月 25日
ユニチカ株式会社

1. 2022年 3月期 決算概要
2. 各事業セグメントの状況
3. 2023年 3月期 業績予想

1. 2022年 3月期 決算概要

2. 各事業セグメントの状況

3. 2023年 3月期 業績予想

業績の概要

前年の新型コロナウイルス感染症の影響による需要減少から回復し、樹脂、フィルムを軸に売上増加。

営業利益は、原燃料価格や物流費高騰の影響を受けたが、価格改定、高付加価値品シフト、販売数量増で補完し、前期比で横ばい。

経常利益は、円安による為替差損益の好転もあり、前期比10億円の増益。

純利益は、前期、受取保険金を特別利益に34億円計上していた影響と、減損損失を計上した影響で、前期比▲16億円の減益。

連結合計 (単位：億円)	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	前々期比	前期比
売上高*	1,195	1,104	1,147	▲ 48	43
売上総利益	274	272	279	5	7
販管費	219	211	219	▲ 1	7
営業利益	55	60	60	5	▲ 0
営業利益率	4.6%	5.5%	5.2%	(+0.6%)	(▲0.2%)
経常利益	32	54	64	32	10
特別利益	1	46	7	6	▲ 40
特別損失	50	53	37	▲ 13	▲ 17
当期純利益	▲ 22	39	22	44	▲ 16

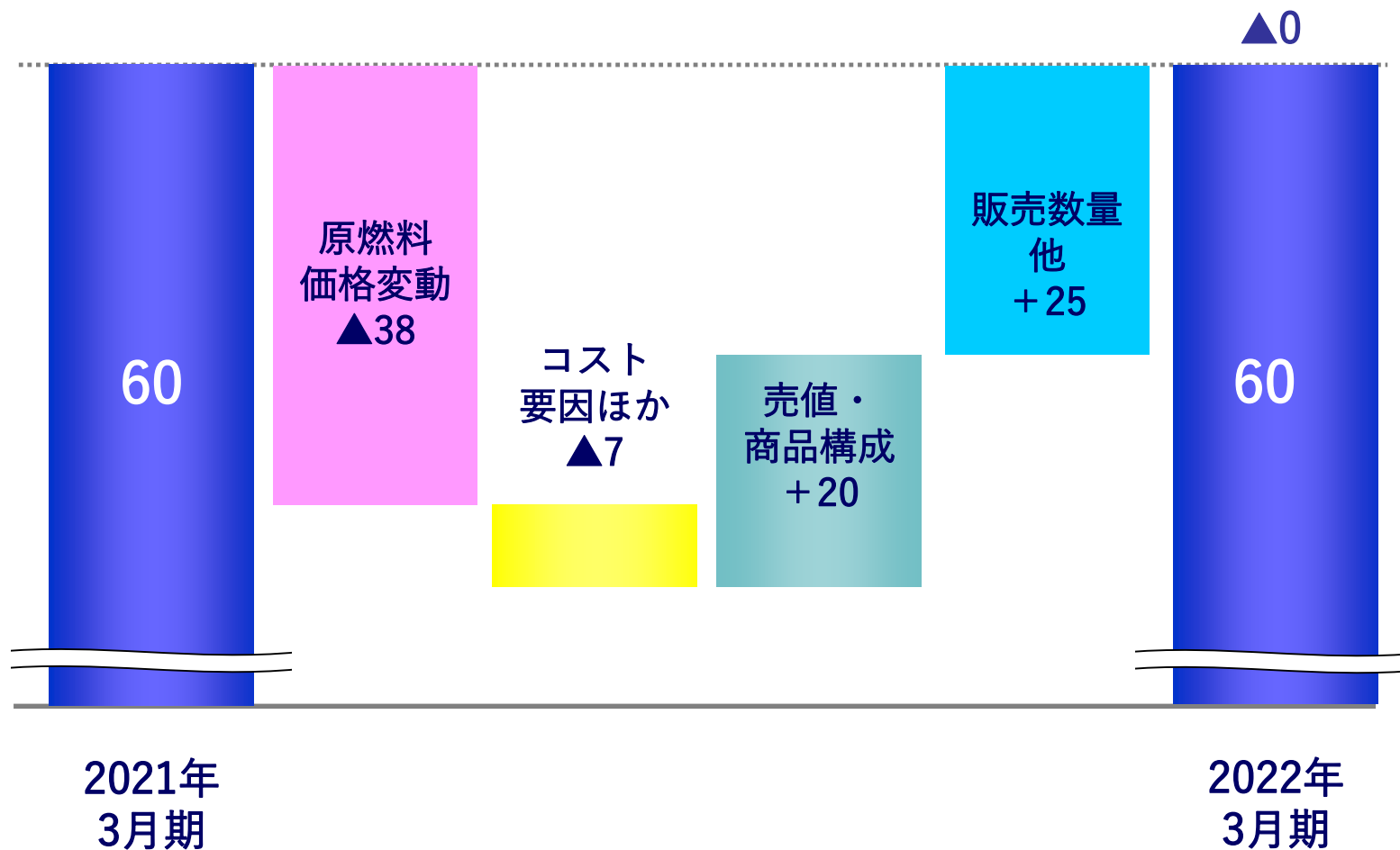
*収益認識基準の適用による今期売上高への影響は▲30.9億円

減価償却費	48	45	47	▲ 1	2
設備投資	93	74	76	▲ 17	2

*減価償却費、設備投資額は無形固定資産分を含まない

営業利益変動要因分析

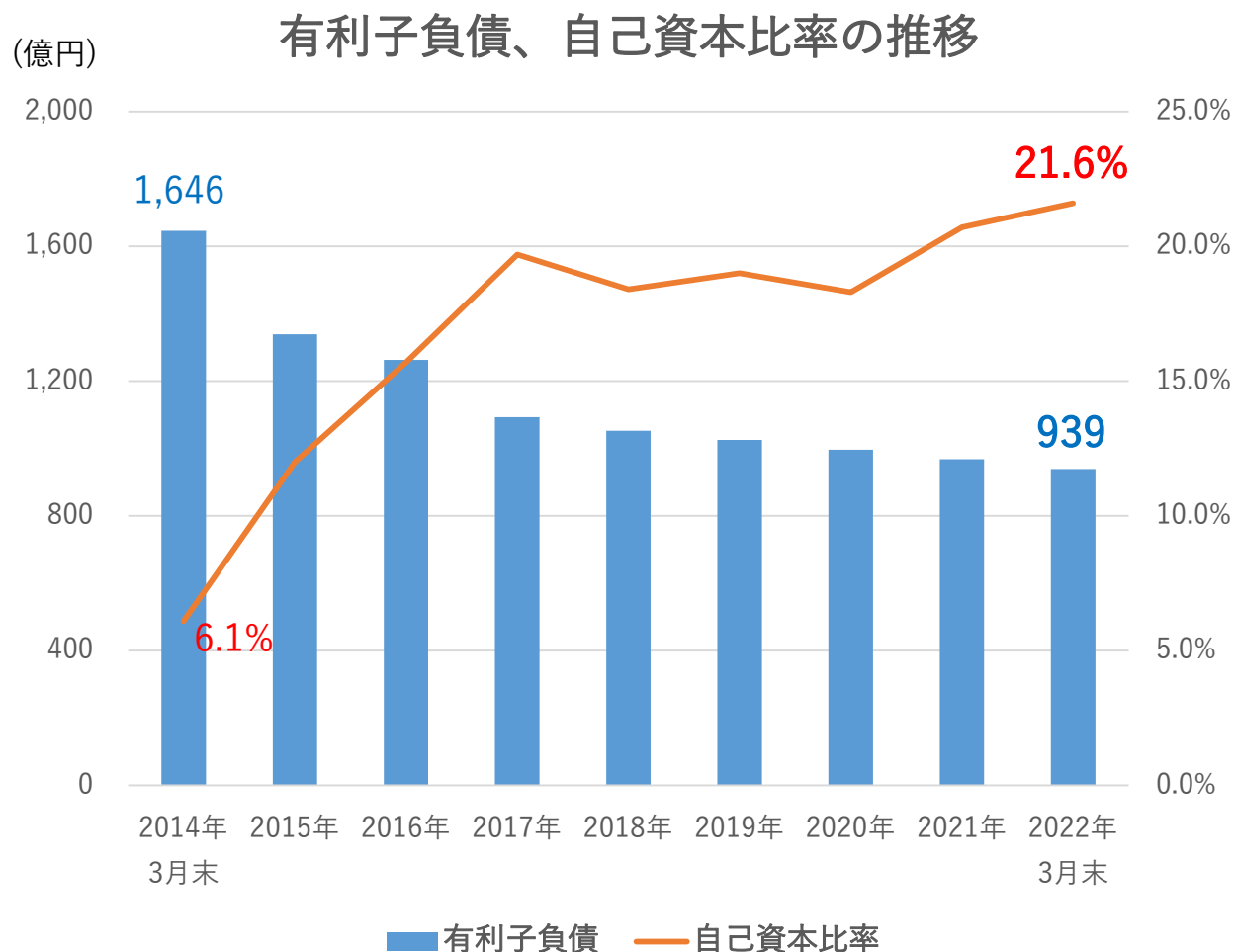
(金額単位：億円)



資産・負債・純資産

(金額単位：億円)	2021年 3月末	2022年 3月末	前期末比増減
資産合計	1,904	1,914	+10
流動資産	811	809	▲2
固定資産	1,093	1,105	+12
負債合計	1,492	1,483	▲9
純資産合計	412	431	+19
株主資本	389	399	+11
その他の包括利益累計額	6	14	+7
非支配株主持分	17	18	+1

財務体質健全化に向けた推移



財務体質の健全化

■ 有利子負債削減
2022年3月末は939億円となり、
着実に削減は進んでいる。
現預金を差し引いたネット有利子負債は749億円。

■ 自己資本比率
2022年3月末は2021年3月末と
比較して0.9ポイント増加し
21.6%となった。

1. 2022年 3月期 決算概要
2. 各事業セグメントの状況
3. 2023年 3月期 業績予想

セグメント別 業績の概要

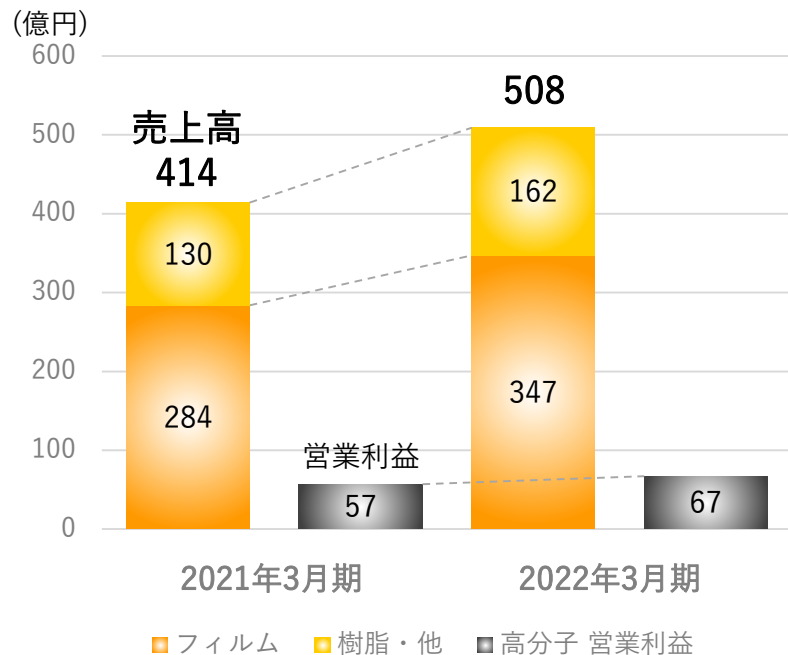
セグメント別 (金額単位：億円)	2021年 3月期	2022年 3月期	前期比増減	
			金額	率
売上高	1,104	1,147	+43	+4%
高分子事業	414	508	+94	+23%
機能資材事業	296	344	+47	+16%
繊維事業	393	295	▲98	▲25%
その他	0	1	+0	+84%
営業利益	60	60	▲0	▲0%
高分子事業	57	67	+10	+17%
機能資材事業	8	0	▲8	▲97%
繊維事業	▲4	▲6	▲2	—
その他	▲1	▲1	+0	—

※当期からの収益認識会計基準等適用による売上高への影響額は▲31億円。事業セグメント別の影響額は、高分子+32億円、機能資材+23億円、繊維▲86億円でした。

フィルムは販売好調、樹脂は売上高、営業利益とも回復。

(金額単位：億円)	21年3月期	22年3月期	増減
高分子事業 売上高	414	508	+94
フィルム	284	347	+63
樹脂・他	130	162	+31
高分子事業 営業利益	57	67	+10

*売上高+94億円のうち収益認識基準の適用による影響は+32億円



□高分子

◆フィルム

◆包装分野

巣ごもり=新しい生活様式として定着し、食品包装の需要は堅調に推移。

バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」や、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する環境配慮型食品包装フィルムなどの高付加価値品の販売は伸長

◆工業分野

半導体関連用途が好調、シリコンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」などの高付加価値品も好調。

◆海外子会社で海上運賃高騰をカバーしきれず。

◆樹脂

◆ナイロン樹脂、ポリアリレート樹脂

自動車用途の回復鈍化も、幅広い用途で需要回復。

◆高耐熱ポリアミド樹脂「ゼコット」

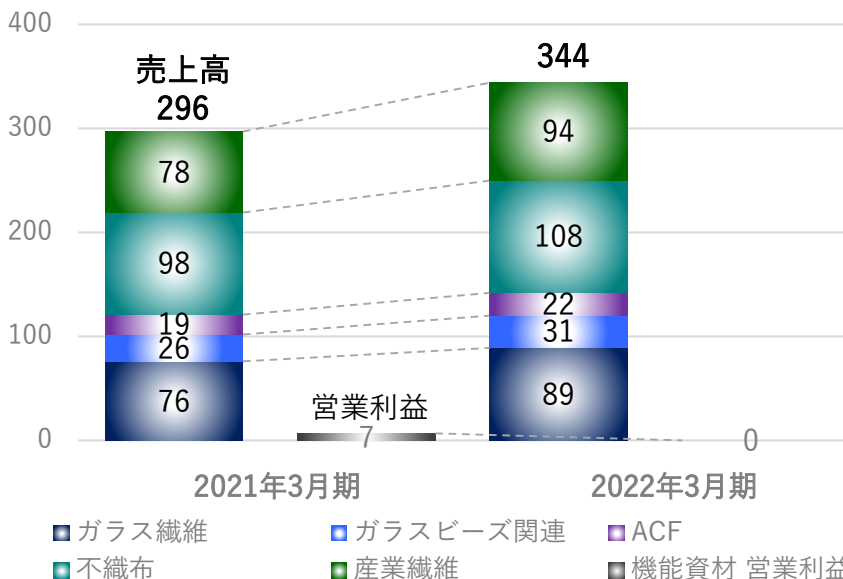
自動車用途、電気電子用途で新たに採用を獲得し、販売が大幅に伸長。

機能資材事業の状況① (ガラス繊維、ガラスビーズ、活性炭繊維) **UNITIKA**

後半に建築土木用途が回復。ICクロスは好調。ACFで新規採用獲得。

(金額単位：億円)	21年3月期	22年3月期	増減
機能資材事業 売上高	296	344	+47
ガラス繊維	76	89	+13
ガラスビーズ関連	26	31	+5
活性炭繊維(ACF)	19	22	+3
不織布	98	108	+11
産業繊維	78	94	+16
機能資材事業 営業利益	7	0	▲7

(億円) *売上高+47億円のうち収益認識基準の適用による影響は+23億円



□機能資材

◆ガラス繊維・産業資材分野

テント、シート等の建築土木用途の需要が下期に回復。

◆ガラス繊維・電子材料分野

ICクロスは、不足する半導体の生産増に伴い、販売が好調に推移。超薄物や低熱膨張タイプなどの高付加価値品の販売も好調。

◆ガラスビーズ関連

道路用途は、一部で需要回復の遅れや豪雨災害の影響もあり、販売は前年並み。反射材用途は、海外への販売が伸長、工業用途もブラスト用途などの販売が好調。

◆活性炭繊維 (ACF)

主力の浄水器用途は、業務用浄水器の需要が回復、海外向け新規採用を獲得し販売が伸長。自動車用途や電子産業関連用途では、半導体不足による工場稼働減の影響で苦戦。

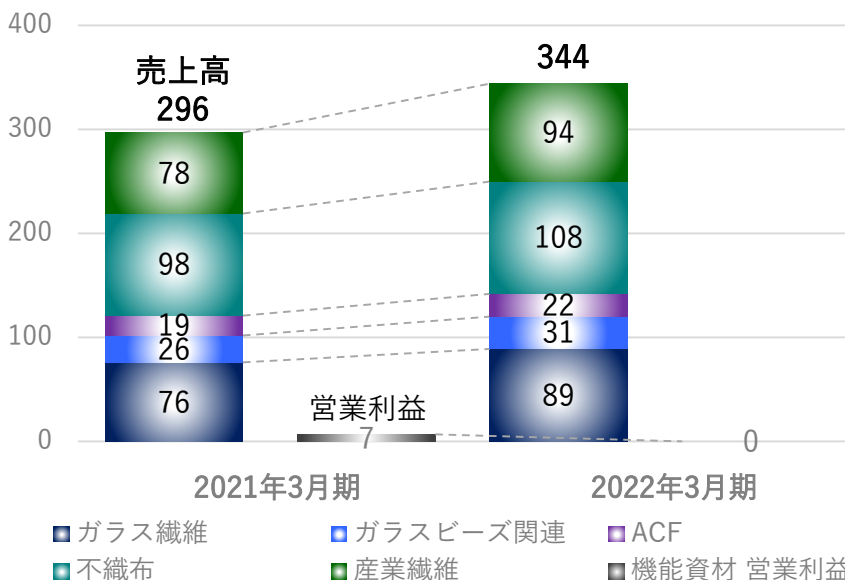
(次頁続く)

機能資材事業の状況② (不織布、産業繊維)

前年の医療用ガウン需要減。他の需要は回復も原燃料等コスト上昇。

(金額単位：億円)	21年3月期	22年3月期	増減
機能資材事業 売上高	296	344	+47
ガラス繊維	76	89	+13
ガラスビーズ関連	26	31	+5
活性炭繊維(ACF)	19	22	+3
不織布	98	108	+11
産業繊維	78	94	+16
機能資材事業 営業利益	7	0	▲7

(億円) *売上高+47億円のうち収益認識基準の適用による影響は+23億円



(続き)
□機能資材

◆不織布

前年に旺盛であった生活資材用途の医療用ガウンや衛生材料用途の除菌シートなどの需要は落ち着く。

一般産業資材、建築土木用途は、新型コロナの影響による前年の需要減少から緩やかに回復。自動車用途は半導体不足による生産台数減の影響で販売減少。

スキンケア用途は、人流減少により低調に推移。海外子会社において海上物流の混乱と運賃上昇の影響を大きく受けた。

◆産業繊維

短繊維は各用途で需要が回復。

ポリエステル高強力糸は、建築土木用途では、前年の需要減少から緩やかに回復するなど全般的に販売は伸長。

一方で、原燃料価格の上昇や海上物流の混乱によるコスト上昇の影響を受け苦戦。

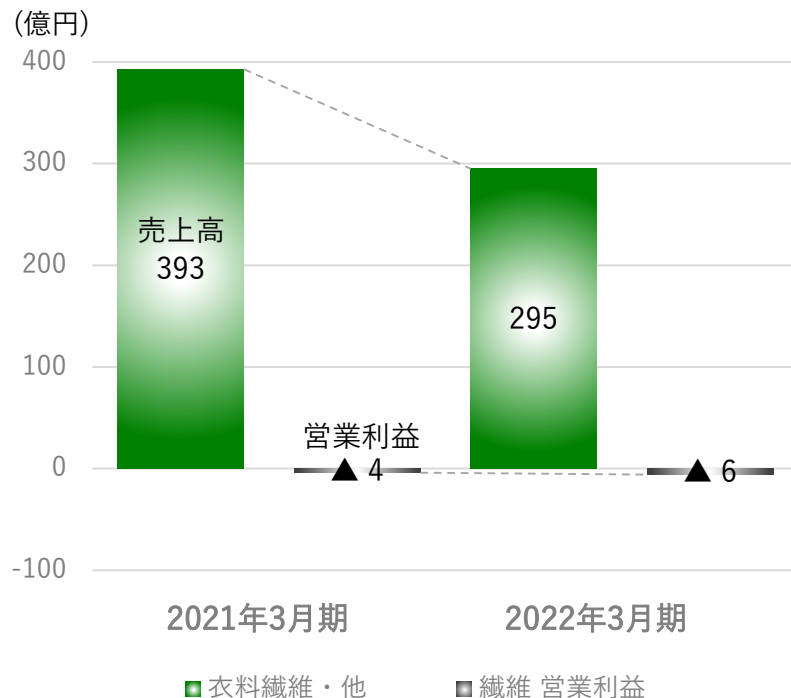
高付加価値品の中空糸膜材料は販売が伸長。

繊維事業の状況

衣料分野で緩やかに回復も、医療用ガウン需要減により苦戦。

(金額単位：億円)	21年3月期	22年3月期	増減
繊維事業 売上高	393	295	▲98
衣料繊維・他	393	295	▲98
繊維事業 営業利益	▲4	▲6	▲2

*売上高▲98億円のうち収益認識基準の適用による影響は▲86億円



□繊維・他

◆衣料繊維・他

前年旺盛であった医療用ガウンの需要が減少。

ユニフォーム分野、レディス分野で緩やかな回復傾向。

大幅なコストアップ要因が重なり、厳しい事業運営を強いられた。

1. 2022年 3月期 決算概要
2. 各事業セグメントの状況
- 3. 2023年 3月期 業績予想**

2023年3月期 業績予想

(金額単位：億円)	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想	前年比 増減
売上高	1,147	1,260	+ 113
営業利益	60	55	▲5
経常利益	64	33	▲31
親会社株主に帰属 する当期純利益	22	15	▲7

前提	2023年 3月期
原油 (\$/バレル)	75
為替 (円/\$)	115

セグメント別業績予想

(金額単位：億円)	売上高			営業利益		
	2022年 3月期実績	2023年 3月期予想	増減	2022年 3月期実績	2023年 3月期予想	増減
高分子事業	508	570	+62	67	56	▲11
機能資材事業	344	370	+26	0	2	+2
繊維事業	294	320	+26	▲6	▲3	+3
その他	1	0	▲1	▲1	0	+1
合計	1,147	1,260	+113	60	55	▲5

補足資料

主要施策の進捗（高分子セグメント①）

	施策		進捗状況（前期比）	評価
フィルム	エンブレムアジア製品のグローバル市場拡大		販売量は前期比で横ばい。新型コロナウイルスの影響で4号機の運転開始が遅延した。	×
	バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の展開		惣菜やレトルトコン向けなど、販売が国内外で伸長、売上高は前期の1.3倍に拡大。	○
	工業用ポリエステルフィルムの拡販		シリコーンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」は、売上高は前期の1.5倍に大幅拡大。	○

主要施策の進捗（高分子セグメント②）

	施策		進捗状況（前年同期比）	評価
フィルム	耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の拡販		電子部品用途の需要が伸び悩んだ。	△
樹脂	「XecoT」の拡販		自動車、電気用途で新規採用を獲得。売上高が前期の4倍以上に拡大した。	○
	「Uポリマー」の拡販		前期の新型コロナ影響から需要が回復し、販売量、売上高が回復。	○

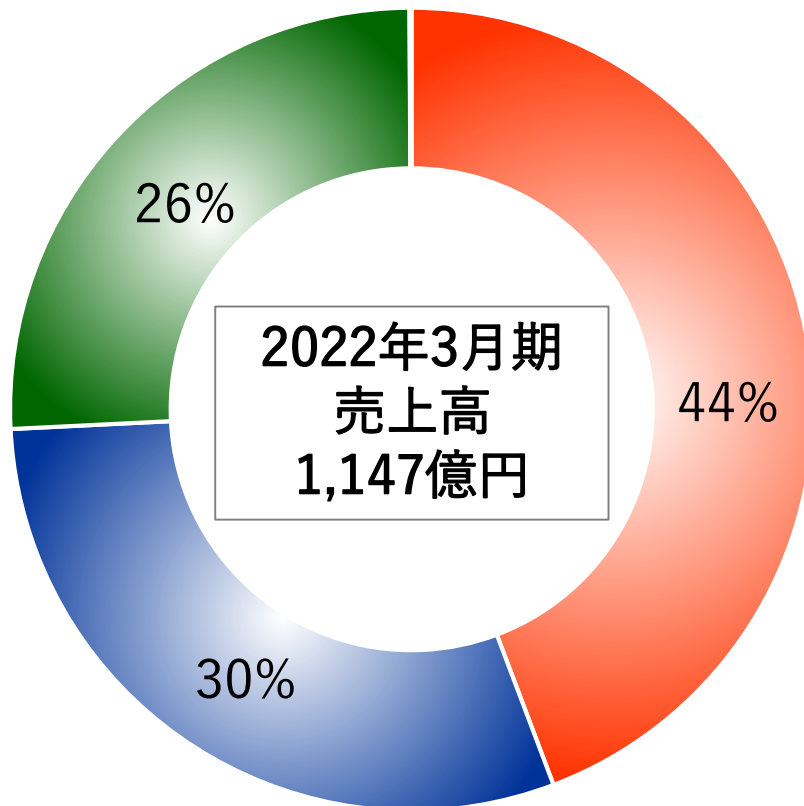
主要施策の進捗（機能資材セグメント）

	施策		進捗状況	評価
活性炭繊維 (ACF)	浄水器用、及び空気浄化用フィルターの拡販による海外市場の開拓		主力の浄水器用途は回復。また、新たな海外ユーザーを獲得。自動車、電子部品産業は工場の稼働低下により苦戦。	○
ガラス繊維	産業資材・電材分野（特殊クロス等）の拡販		産業資材分野は、電気電子分野関連資材用途で販売が回復、建築土木用途も後半に回復。電子材料分野は、半導体用途好調。	○
不織布	спанボンド 生活資材用途、海外向け自動車部材の拡販		生活資材用途の需要は落ち着く。自動車用途は、半導体不足等による生産台数減少の影響を受ける。	○
産業繊維	ポリエステル 付加価値品の拡販		短繊維、高強力糸ともに販売を伸ばしたが、コスト増の影響を大きく受けた。	△

国内シェア優位事業

※シェアは当社推定

	製品	国内 シェア	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリアリレート樹脂	当社 独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能資材	ガラスクロス（産業用）	20% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築 土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築、土木資材 農業資材、衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材、医療資材	天然素材の シート化技術



高分子事業

(売上高構成比 44%)

- ◆フィルム ナイロンフィルム
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂、ポリエステル樹脂
ポリアリレート樹脂

機能資材事業 (売上高構成比 30%)

- ◆ガラス繊維
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維
- ◆不織布 スパンボンド
スパンレース
- ◆産業繊維

繊維事業 (売上高構成比 26%)

- ◆衣料繊維 ユニフォーム
一般・婦人衣料素材
スポーツ衣料素材 等

その他 (売上高構成比 0%)

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。